

2019 年度

論文題名:オープンイノベーションのジレンマ～Techstars 運営  
『コーポレートアクセラレータープログラム』における採択企業の失敗・成功要因の  
QCA 解析～

## 要旨

本稿は Techstars 運営のコーポレートアクセラレーターに注目して、オープンイノベーションの概念と誕生とアクセラレーター発生の背景を説明しながら、クリステンセン(1997)『イノベーションのジレンマ』やチェスブロウ(2003)より論じられてきたオープンイノベーションとイノベーション研究の系譜で生じた矛盾を、Techstars 運営のコーポレートアクセラレーター採択スタートアップの成果を分析した結果をもって指摘し批判したものである。

分析については Techstars 運営のコーポレートアクセラレーターと同企業運営の別のプログラムデザインのアクセラレーターを比較する。出口戦略で成功(Exit)したスタートアップにはどんな要素や条件を有しているのかについて地域を米国限定し、年度を 2014 年に限定して QCA(質的比較分析)解析することで、コーポレートアクセラレーターで機能するスタートアップの特性と大企業の意味決定で間違えうるオープンイノベーション時特有の『イノベーションのジレンマ』の現象について調査した。結果は、コーポレートアクセラレーターはその他のプログラムと比較して、採択企業の成功・失敗要因において、株式市場の変動の影響を受けにくいという特徴を持つ一方で、大企業の価値概念では阻害されうる組み合わせは確認できなかった。

結論として、コーポレートアクセラレーターは大企業のオープンイノベーション施策として、クリステンセン(1997)とチェスブロウ(2003)が提唱したオープンイノベーションの設計と概念を補完・実現するために誕生したという背景と目的を考えると、矛盾した結果が得られた。QCA で解析した成功・失敗要因の組み合わせは、コーポレートアクセラレーターが「大企業が新興企業に敗れてしまう原因と対策案」の最大の要因である「見えざる新興市場」への解決策としては乖離している内容の結果である。

経営学 研究科 経営学 専攻修士課程  
マーケティング コース  
氏名; 鈴木 大貴